

私が歌う理由

リュグナー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

私はあなたの為に歌い続ける。

私が歌う理由

目

次

私が歌う理由

まんまるお山に彩りを！丸山彩です♪

私には好きな人がいます。アイドルだからダメなのはわかってる
んだけど……。少しもどかしく感じるなー。

でも、彼は突然倒れてしましました。急いで病院に駆けつけた私に
彼はこう告げました。

「がんなんだって。心臓がん。……助かる見込みはあるから心配しな
いで」

助かる見込みはある、私はその言葉を信じました。彼は普段から嘘
をつかないことを知っていたから……。

私は次の日から毎日のように通い詰めた。流石に一日中お仕事の
日は無理だったけど……。いつ行つても彼は元気そうでした。

「今日はイヴちゃんがね…………」

「そつか、大変そうだな」

そう言つて微笑みながら私の頭を優しく撫でる。私もつい笑顔にな
なつちやう。
(いつまでも続けばいいのに……)

でも私は気付いていた。彼が少しづつ痩せていることを。

日に日に彼は痩せこけていった。でも私の前では笑顔が絶えない。
彼は助かる、そんな微かな希望……願望を持っていた。

ある日彼とこう話した。

「明日、手術なんだ。成功するば退院できるんだって」

「明日、なんだね。……私はライブがあつて」

「知つてる。応援してるよ、いつまでも。彩が頑張つてる限り」

「うん！私、頑張るね！……退院したらライブ見に来てね」

「……。ああ、必ず行く」

その日のライブはいつも以上に気合いを入れた。MCもちゃんと
できて、歌も上手く歌えたと思う。歌つている途中に手術中のはずの
彼がいたような気がした。いるはずがないのに、確かに聞こえた。「応
援してる」という彼の声が……。

ライブは大成功で終わった。千聖ちゃんや日菜ちゃんには「本当に彩ちゃん?」と言われたし、麻耶ちゃんは「彩さん、どうしたんですね?」と言われ、イヴちゃんはいつも通り「彩さん、すぐブシドーでした!」……ちょっとショックだつた。イヴちゃんはいつも通りわからんないし……。

はやく、病院に行かなきや。そして彼に今日のことを話したい。病院に着いた私を待っていたのはいつもの彼じゃなかつた。血の氣のない顔、体は痩せこけて角ばつて見える。女の子の私より細い手足。

ずっと……気付かないフリをしてた部分が私に主張してくる。ピ一という電子音。0という数字。微動だにしない直線。彼はもう死んでいた。私は受け入れたくなかった。ツー、と頬を涙が伝う。そして止まらなくなつた。声を上げて泣いた。

微笑んでくれていた彼はもういない。

頭を優しく撫でてくれていた彼はもういない。

私が好きだつた彼はもういない。

「泣くなつて」

そう聞こえた。彼の声が聞こえる。

「ライブ見に行つたよ。退院したら行くつて約束だつたもんな

あれは私の気のせいじやなかつた……?

「応援してる、彩が頑張つてる限り。いつまでも

本当に?」

「ああ、だから泣くな。前を向け。いつでもライブ見に行つてやる
約束だよ? 私、頑張るから。絶対来てね!」

「おう、約束だ」

「うん! 約束。」

彼は死んだ。でも私の中で生きてる。

「みんな！来てくれてありがとう！まんまるお山に彩りを！ふわふわ
ピンク担当、丸山彩です♪」

だから私は歌い続ける。

彼との約束のために。

だから私は頑張り続ける。

彼との約束のために。

だから。

私は歌い続ける。

彼に私の歌が届きますように。

「ちゃんと届いてるよ」

今日も彼は来てくれた。

私は……あなたの為に歌い続けます。

ずっと、ずっと……君のことが好きだったよ。